

資金量・融資量ランキング(全国550)

7月12日に発行されたニッキン(業界新聞)にて全国550金融機関の「資金量・融資量ランキング」(2019年3月末時点)が公表されました。資金量1位、2位は前年と同じ、「ゆうちょ銀行」、「三菱UFJ銀行」の順でした。融資量1位は「三菱UFJ銀行」、5位までの変動はありませんでした。以下にベスト10を記載しておきます。

<融資量ベスト10>

	融資量(億円)	預貸率(%)
1. 三菱UFJ銀	878,779	57.4
2. 三井住友銀	768,789	64.9
3. みずほ銀	760,473	63.6
4. 三井住友信託銀	308,492	39.6
5. りそな銀	198,133	48.7
6. 農林中央金庫	184,380	27.0
7. 横浜銀	111,331	77.7
8. 千葉銀	101,368	82.1
9. 福岡銀	98,978	94.7
10. 静岡銀	85,568	86.6

<資金量ベスト10>

	資金量(億円)
1. ゆうちょ銀	1,809,991
2. 三菱UFJ銀	1,528,706
3. みずほ銀	1,194,112
4. 三井住友銀	1,183,136
5. 三井住友信託銀	777,543
6. 農林中央金庫	680,837
7. 三菱UFJ信託銀	502,022
8. りそな銀	406,027
9. 信金中央金庫	334,535
10. みずほ信託銀	286,038

ちなみに、融資量ベスト10に出ていた横浜銀の資金量は11位で143,209億円、千葉銀は13位で123,334億円、福岡銀は14位で104,471億円、静岡銀は15位で98,777億円となっていました。資金量ランキングでは信託銀行が上位になっていますが、これは業務特性としてそうなりますね。

さて、融資量ベスト10を見て頂きますと、そうそうたる金融機関です。ちなみに、日本政策金融公庫は約18兆円ですから、特に3メガバンクは資金・預金量ともに圧倒的ですね。年商数千万円～数億円の小規模・中小企業がメガバンクと付き合うのはどうなのだろうか？と思わざるを得ません。様々な状況を考慮して取引先の金融機関を検討したいものです。

また、7月10日に横浜銀行と千葉銀行の提携が公表されました。地方銀行では圧倒的なグループになりますが、それでも3メガには到底及びません。

また、預貸率(預金残高に対する貸出残高の比率)を見て頂きますと、地方銀行が高いのに対してメガは相対的に低いです。東京商工リサーチによると2019年3月期の国内銀行111行の預貸率は65.7%と10年ぶりに上昇。業態別では、大手行58.4%(前年同期58.1%)、地方銀行75.4%(同73.9%)、第二地銀77.2%(同76.2%)と全業態で預貸率が上昇したとのことです。相対的に地方銀行の積極的な融資姿勢を垣間見ることができるとい見方もできます。

(※出典：<https://bit.ly/2Jyms17>)

信金、信組の融資量ランキングは？

一方、零細・中小事業者を主な支援対象としている信金・信組では、京都中央資金が55位で26,627億円で信金トップです。信金2位は城南信金で21,972億円です(全体61位)。信組では近畿産業信組が9,023億円で信組トップです(全体129位)。ちなみに都内で独自の支援で注目されている第一勧業信組は2,561億円、全体で226位です。比較すると、メガや大手地銀との規模差が一目瞭然ですね。

今現在、取引のある金融機関が全体のどれくらいのポジションなのかを知っておくといいいでしょう。本当にその金融機関でよいのか？など、様々な判断材料、情報を得ることができます。また、2019年7月6日号の週刊ダイヤモンドにて「銀行危険度ラインキング決定版」が発行されています。こういう特集は業界全体を把握するのにとても役に立ちますので、一読されてみてください。保存版としてもお勧めいたします。